第１回

湯崎知事と本音で語る

「欲張りライフ懇談会」

（三次市）

と　き　平成２８年９月３日（土）
ところ　三次市民センターきりり

目　　次　　頁

１．知事挨拶 ･･･ 1

２．横山雄二さんの「欲張りライフ」とは？ ･････････････････ 3

３．あなたの周りの「よくばりさん」の「欲張り自慢」

欲張り自慢① ･･･ 18

欲張り自慢② ･･･ 24

４．欲張りトーク ･･･ 30

５．閉会挨拶 ･･･ 38

広　　島　　県

１．知事挨拶

●湯﨑知事

会場のみなさん，こんにちは。広島県知事の湯﨑英彦です。今日は土曜日で大変お忙しいところ，この会にご参加いただきまして，ありがとうございました。また，私はこのきりりのステージに立つのは初めてでして，こうして改めて見ると，とても素敵だなと思います。

そして庄原と三次のみなさんには，金藤選手の金メダル，おめでとうございました。本当に素晴らしい成果で，県北の大ヒーローの誕生です。帰って来られましたら，県民栄誉賞を差し上げることを決めておりますので，その授与を楽しみにしています。

せっかくですので，ダンスを披露していただきました三次プリンセスカーニバル代表の岡本真由美さんに少しお話をお伺いしたいと思います。

○岡　本

どうぞよろしくお願いいたします。

●湯﨑知事

去年６月に三次で「チャレンジ・トーク」を行った時に発表していただきました。その前には，三良坂で一緒に踊りを踊らせていただきました。

○岡　本

そうです，三良坂のみんなも知事さんと踊ったことが，今も印象深い思い出となっています。

●湯﨑知事

とても楽しかったですね。今の子供たちもそうですか。三良坂にあの時いた子たちも結構いるのですか。

○岡　本

三良坂の時は三良坂の子供たちで，今日とは違うメンバーでした。

●湯﨑知事

岡本さんは活動的で，まさに暮らしをエンジョイされているという印象なのですが。普段のお仕事は何をされておられますか。

○岡　本

私が暮らしをエンジョイしているものはダンスの他にもうひとつあります。それは今の仕事です。実は小さい頃から憧れていた建設会社で事務の仕事をしています。普段，私は事務なので作業着はあまり着ることがないのですが，この写真はちょっと記念なのです。建設会社のイメージは，怖いといった，あまりよくない印象を持たれている方が多いので

はないかと思うのです。しかし，私が会社に入ってみて，全然そんなことはなくて，もっと素敵なところをいろんな人に知っていただけたら，という会社の取組です。こちらの写真は，地元の保育所の子たちに機械に乗って体験してもらっています。

●湯﨑知事

これは習字をしているのですか。

○岡　本

そうです。これは機械を使って習字をしています。ずっと練習した方でないとできないのです。機械に筆を付けて文字を書いているところになります。

●湯﨑知事

岡本さんの会社のことをみなさんに理解していただくために，いろいろやられているのですね。

○岡　本

もっと建設会社に興味を持っていただけたらという会社の取組なのです。最後にこの子供たちに，「建設会社で働きたいと思った人」と聞いたら，全員の手が上がったのですよ。すごいことではないですか。この子たちにも『欲張りライフ』を少し体験してもらえて，とてもすごくいい経験になったと思います。

●湯﨑知事

そうですね。今，建設会社の従業員のなり手が少し減っていて，困っているところもあります。本当にいろんなことにチャレンジをしていらっしゃるという感じです。

今回のタイトルに，『欲張りライフ』とありますが，これは昨年の 10 月に改定をしました広島県の 10 年間の総合計画『ひろしま未来チャレンジビジョン』の中で掲げた，今後 5 年間で県民の皆様と一緒に目指す姿，「仕事でチャレンジ！暮らしをエンジョイ！ 活気あふれる広島県～仕事も暮らしも。欲張りなライフスタイルの実現～」。ここからきています。例えば，みなさんの中には仕事が忙し過ぎて，趣味の習い事に通えないとか，あるいは，育児や介護が大変で，仕事をあきらめた，という方もいらっしゃると思います。広島県では県民の皆様，お一人おひとりが，仕事や暮らしに対して持っていらっしゃる希望ですね。「仕事がやりたい！」という人もいれば，「もっと徹底的に暮らしをエンジョイ！」という人もいらっしゃると思いますし，両方やりたいという方もいらっしゃると思うのです。そういった希望を広島でならかなえられる，広島でかなえよう，そう感じることができる社会を作っていきたいと考えています。

岡本さんは，昼間は建設会社で働いていらっしゃるかたわら，特技を生かしてダンスサークルで子供たちに振り付け，あるいは指導をするなど，暮らしをエンジョイされています。まさに『欲張りライフ』を実践している代表の一人ではないかと思います。

今日はこの後，岡本さんと同じように日ごろから『欲張りなライフスタイル』を実践されている方を代表していただいて，中国放送アナウンサーの横山雄二さんに講演をいただ

きます。また，その他，県北で『欲張りライフ』を送られている『よくばりさん』と我々は呼んでいるのですが，『よくばりさん』に『欲張り自慢』をしていただきたいと思っています。

仕事も暮らしも両方追求しようというメッセージを皆さんにお伝えすることによって，「あれもこれも頑張っていいんだ」という意識を持っていただきたいと思っています。

２時間という少し長い時間になりますけれど，最後までお付き合いいただければと思っていますので，どうぞよろしくお願いいたします。

２．横山雄二さんの「欲張りライフとは？」

○横　山

みなさん，こんにちは！拍手が少ないからもう一回出直そう。みなさん，こんにちは！ありがとうございます。天才，横山でございます。今日は呼んでいただいて，これだけたくさんの方に来ていただいて，本当にうれしく思います。写真撮っていいですからね。大丈夫ですよ。１枚 500 円取りますけどね(笑)。実際に会うと「意外にかっこいいのね」と言われます。今日は知事がいらっしゃるんですけど，「どんな服なんですかね」と聞いたら，「クールビズです」と言われたのです。じゃあネクタイをしなければいいのか，と思って今日はこの服で来たのです。そうしたら知事が普段着みたいなので，なんだ本当のクールビズじゃん，と思いました。湯﨑知事は，僕の１歳上なので，平生だったら，意外とかっこいいと言われる僕も，知事の前では，ちょっとどうかなと思いながら，みなさんの反応を見ていたところなんです。パラパラの拍手ありがとうございます(笑)。

今日は『欲張りライフ』ということでお話をさせていただこうと思うのですが，今回が第 1 回なんですよね。どうして僕が呼ばれたのだろうと思ったら，僕の経歴ですよ。それが欲張りっぽく見えるらしいのです。

僕が RCC に入社したのは平成元年なので，アナウンサー歴 27 年なんですが，27 年の間にいろんなことをやらせていただきました。改めて僕の経歴を自分で見るじゃないですか。そうすると，アナウンサーでしょ，２年前に映画の監督をさせていただいたので映画監督でしょ，脚本も書いているので脚本家でしょ。去年，自分の主演の映画が２本，『ラジオの恋』と『浮気なストリッパー』が公開されて，あと『シネマの天使』という映画にも出させていただいて。阿藤快さんの遺作になった作品ですね。これに出させていただいたので３本出ています。ちなみに『男たちの大和』にも出ているのですよ。『男たちの大和』は，「坊主頭にしていいんだったら出ていいですよ」と言われて，喜んで坊主頭にしたのですが，今はもう普通に坊主頭になりかけてるという状態なんですけど(笑)。この俳優業があるでしょ。それから，俳人。これは実は 10 年間俳句を作り続けていまして，３年前ですか，角川映画の創始者の角川春樹さん選出の俳句の新人賞をもらって，ずっと俳句は続けているのです。レーシングドライバーもあります。あと，ダーツの広島大会でチャンピオンになったこともあるのでダーツをする人とか。CD はもう 10 枚出しているので歌手。ここは笑うとこじゃないですよ(笑)。経歴にするとすごいことになるのです。

でも，これはきっと皆さんも同じはずなのです。僕の場合は表向きに自分のプロフィールを出さなきゃいけないので，やったことを書き連ねると，すごい欲張りにいろんなこと

をやっている人みたいに見えると思うのですが，例えば，皆さんも書道をされる方がいらっしゃったり，園芸をされる方がいらっしゃったり，ダンスされる方がいらっしゃったり，あとはお孫さんの世話をされる方がいらっしゃったり，何かのスクールに通ってます，みたいな方がいらっしゃるじゃないですか。僕は今４９歳なのですが，例えば，みなさんも人生を振り返ってみて，やったことを書き連ねていくと，たぶん，「あっ，意外と私は欲張りにいろんなことをやってたな」と思うはずなのです。

僕は好きなことをずっとやり続けていたり，ずっと念じていたりするのですが，思っていることがあって。それは，努力すれば何でもかなうという訳ではないが，努力をしておかないとせっかく来たチャンスを逃してしまう，ということです。だから，僕が２年前に映画の監督をさせてもらったのが，入社 25 年目なのですが，僕は会社に入って１年目からずっと夜，映画の脚本を書き続けています。だから映画化されていない僕の脚本が何本もあります。だから，表に出たから欲張りに見えますが，成功しなかった，できなかったら，ただひたすら誰にも分からず続けていることがある，というだけのことです。そうすると，皆さんが，日記を書いていますとか，家計簿をつけていますとか，あと，T シャツを集めていますとか，スニーカーを集めていますとか，そういういろんなことも『欲張りライフ』のひとつになるのではないかと思うのです。

僕はたまたまアナウンサーという仕事なので，目立つところにいるから，「すごいいっぱいやってるよね～」って思われるけど，実は皆さんとあまり何も変わらない。だから今日ここに来られている方は，実はアンテナがすごく高い人だと思うのです。たぶん僕が近所でこのイベントをやっていても行かないです。ちょっと面倒くさい。何やるか分からない。知事が来て，横山が来て，何かトークするみたいよ。何するんだろうなと思って。「まあ行けたら行こうかね」って。この「行けたら行こうかね」というのは大体行かないのです。だから「行こう！」って決めてカレンダーに書いたり，予約を申し込む，その能動的さとか，この日にカレンダーに丸を付けて，楽しみにしていることが未来にある。それだけでとても『欲張り』なことで。アクティブ，能動的な人のような気がするのです。

僕の経歴の中で意外とみんなが「えっ」ていうのが俳句なのですが。僕の『欲張りライフ』は，すべて人づきあいから始まっています。CD も自分で出そうと言った訳ではないのです。最初は 1995 年に『広島の空』という歌を阪神大震災があった時に義援金を送りましょうということで，CD を出すことになったのです。それもうちのラジオのディレクターが「横山さん，歌えばいいじゃないですか。曲なんかどうにでもなりますよ」と言い出したのがスタートです。レーシングドライバーも，番組の企画で横山が無理難題に挑戦する，みたいなことをさせてもらって A 級ライセンスを取りました。映画もコツコツ，コツコツやっていたことで，誰かが手繰り寄せてくださった。最近の流行で言うと中島みゆきさんの『糸』みたいなものです。縦の糸と横の糸があって，紡がれて布になる。布が僕です。だからみんなが横山という糸をいろんな人たちと絡ませてくれて，どんな模様の布ができるのかなと楽しんでくれているのです。

俳句は，僕は中学校１年生の時から映画が大好きで，たぶん知事と１歳しか違わないので，世代は一緒なのですが，角川映画というのがものすごい流行ったのです。角川映画が流行っていたのが記憶にあるという方，どれくらいいらっしゃいます？今日は年配が多いから意外と分かりますよね。手を上げない方って，面倒くさいから上げないのですよね(笑)。

たまに手を上げさせますけど，これは生存確認でもありますからね(笑)。上げてくださいよ。

1976 年に『犬神家の一族』というのが公開されます。それで理由はよく分からないですが，すごくカッコよかったのです。映画館へ見に行って，スゲーと思った。映画ってこんなにスゲーのだと思っていたら，一番最初に『角川春樹制作』って出るんですよ。この人が作っているのだと思ったのです。あっそうか，映画ってこうやって一番最初に名前が出る人がいるのだと思って。角川映画に夢中になってから映画をずっと見続けていきました。角川映画から今度は横のラインです。黒澤明とか，フランシス・フォード・コッポラとか，ジョージ・ルーカスとか，スティーブン・スピルバーグとかいう監督さんがいるでしょ。僕は中学生，高校生の時にそれらの映画を見る訳ですよ。「わースゲー，映画ってスゲーわ。将来的にこの角川春樹という人に会いたい」って思っていたのです。そうしたらこういう仕事になったので，会うことができました。

東京で角川春樹さんに会い，インタビューをしました。僕は角川さんに，いろんな愛情の言葉をすべて注ぎ，語りました。するとたまたま，「尾道大学に俳句の授業で行きます」という話があって，また，会いに行ったのです。「あの時の者です」と言って。すると「お前，せっかく広島なんだから，この授業は 10 回，半年で終わるから通いなよ」と言われて。「でも僕は授業料を払ってないですもん」と言ったら。「いいよ，知らん顔して入ればいいじゃん」と言われて。お金も払わずに聴講生として 10 回通いました。皆勤賞だったのです。

全然だめだったです。本当にだめだったです。でも 10 回目が終わった時に角川春樹さんが「お前，せっかくやったんだから続けたほうがいいよ。俳句なんかさ，17 文字で今のこの時代，正岡子規と戦えるんだぜ」って言われました。確かにね，と思ったのです。ルールが変わってないのです。季語を使って，17 文字で，昔の人たちと現代の僕たちが感性で戦えるのです。カッコいいなと思って，それからずっと続けて，毎月 5 句を東京の角川春樹さんのところへ送るというのを延々続けています。

すごい苦痛です。超面倒くさいです。毎月 15 日までに送らないといけないのです。10 日ぐらいから，リスナーの方からメールが来るじゃないですか。『ごぜん様さま』で大体 1 日 1,000 通近くのメールが来るんですけど，それに目を通すでしょ。その中から季語になりそうなものとか，感性が面白そうなものをいっぱいパクります(笑)。これいいな，と思ったら。ワーっとメモして，2，3 日でワーっと考えて，5 句作って出すんですよ。そうすると 1 ヵ月後に『河』っていう俳句の本があって，そこに寸評が載るんですね。載ると，うれしいなと思うし，続けていてよかったなと思います。

この角川春樹という人に中学校 1 年の時に憧れて，出会って，こうやって会話も出来るし。今じゃ東京へ行くと一緒にご飯を食べて，家に行って，お酒を一緒に飲んだりするんですよ。映画のこととかいっぱい語ったりするんですけど。この角川春樹さんという人は面白い人で，昔『汚れた英雄』っていう，オートバイレーサーの映画を作った時に，免許も持ってないのにサーキットを 1 回自分で走ってみないと感覚がつかめないと言って，ものすごいモンスターみたいなマシンに乗ってサーキットへ出て行かれたんですよ。免許も持ってないんですよ。何分待っても戻って来られなくて，みんなが探しに行ったら，血だらけで倒れていたという人です。その時に顔にすごいケガをされて，未だにちょっと傷があって，ちょっとだけ滑舌が悪いんですよ。だから面と向かって会って話している時は普通に分かるんですが，電話だと何を言っているか全然分からない時があるんですよ。この

間も電話したんです。「あの横山ですけど，東京行くんですけど会えないですかね」と言ったら，「ちょっと待ってろ，スケジュール合わせてみるわ」。後で電話すると言われたんで，電話を待っているとかかってきて，「もしもし角川です。あのさその日はね，じゃあ銀座の◎※△Ｘ□◎※△Ｘ□◎※△Ｘ□で待ってるよ」と言われたんです。滑舌が悪いから聞き取れなかったんですよ。ここをケガされてちょっと滑舌が悪いから。「春樹さんすみません，電波が悪くて聞き取れなかったんですけど，銀座のどこですか？」と言ったら，「ちぇっ，◎※△Ｘ□◎※△Ｘ□◎※△Ｘ□」と言われたんですよ。これね，偉い方の言葉が聞き取れない時に聞き直すのは２回しかできないですね。３回目はもう聞けなかったです。「分かりました。銀座に行って，もし分からなかったらもう１回電話します。じゃあ７時に銀座の◎※△Ｘ□◎※△Ｘ□◎※△Ｘ□ですよね。分かりました。分かりました。」と言って電話を切りました。どこへ行けばいいんだと思いましたよ。

それから新幹線に乗って東京に行って。ホテルを取っていた品川へ行って。タクシーで行こうと思って運転手さんに「あの銀座にお願いします」と言ったんです。そしたら「どこですか」と言われたんで，「銀座なんですけど，あんまりよく聞き取れなかったんですよね」と言ったら。「何と言われたんですか」と言うので。「えっと，◎※△Ｘ□◎※△Ｘ□◎※△Ｘ□，と言われたんです」と言うと，運転手さんが「◎※△Ｘ□◎※△Ｘ□◎※△Ｘ□。コリドー通りの美登利寿司」って言ったんですよ。「えーー」って。「じゃあとりあえず，コリドー通りの美登利寿司に行ってみますか」と言われて，「行く，行く」と言って，行ったら角川春樹が立ってたんですよ。スゲーって。運転手さんスゲーっと思って。ああいう方も，若干の名探偵コナン感がある訳ですよ。だから，『欲張り』とは言わないけど，目の前にあることを一緒に楽しむということをしてくださる方だったから，僕はああいうことが豊かな生活という気がするんですね。

だからさっき言った，こういう『欲張りライフ』のイベントがあると知って来てくださる方は，『欲張り』なんですよ。楽しみを知っている。例えば，今日，僕が履いている靴ってね，はじめて履いたんですよ。これ，ゆめタウンがそこにありますよね。セブンイレブンもあったけど。ゆめタウンに買物に行った時に，「なんか靴の踵のところがベロベロになっている」と思って。履いてる時はバレないんですよ。脱ぐとボロボロの靴に見えるんですよ。靴って気をつけないと，いつも履いてると自分は分かんないけど，まわりは「汚ない」と思ってるんですよね。前に脱いだ時に，「わっ」と自分で思ったんですよ。それで，ゆめタウンに行った時に「あっ，買おう」と。そうしたら 6000 円くらいで『スニーカーの履き心地』って書いてあるのがあって。それを衝動買いみたいにパッと買って，今，履いて来たんですよ。この新しい靴を履いているというだけで，ちょっとだけ背筋がピーンとなります。「ああ，何か楽しいな」とも思う。こうやって足を見ていると，「あっ，いいね」と思います。それだけでちょっと心が浮き立つじゃないですか。そういったことの繰り返しが，たぶん『欲張りライフ』になるんだと思うんです。

例えば，僕は俳句をやるので書道もやります。２段なんですけど。習字って，始めた時って，ヘタクソですよ。習いに行った１日目，こうやって書くじゃないですか。うまくならない。何かよく分からない。２日目，うまくならない。何かよく分からない。３日目，またよく分からない。どうしていいか分からない。４日目，まだ分からない。ちょっと先生に怒られる。１週間，１カ月，２カ月，半年，１年，あれ，様になってる，ってことで

すよ。今日と明日は，何にも区別がまったくつかない。だけどこうやって，ちょっとずつ，ちょっとずつ，歩みを進めると，気がついたら，「あれ，ちょっといい感じになってない？」となるんですよ。たぶんこれが，『欲張りライフ』なんですよ。

だからきっと１年後に，今日，ダンスの子供たちみたいに踊ろうと思って，１年間ステップを踏んだら，来年はここで踊れますよ。本当。そんなことが出来るはずです。だって女性の化粧なんか，そうじゃないですか。こうやって塗ってるけど，さっぱりでしょ。今日，これだけたくさんの方がいらっしゃっていて，僕は呼んでいただいたことがすごいうれしいんですよ，本当に。いつもだったらもう誰か家に連れて帰りたいぐらいの思いがあるんですが，今日は誰も連れて帰りたい人はいないですもんね。全然いない。ちょっと人形みたいな方がいらっしゃいますよ。中にはワラ人形みたいな方もいらっしゃいますよ(笑)。カサカサしてるわー，みたいな。分かんないじゃないですか。だけど信じてやるでしょ。爪もそうじゃないですか。昨日より伸びてるって分かんないじゃないですか。でも 10 日ぐらい経つとやっぱり，切んなきゃなと思うから。ああいう風に伸びていったり，ああいう風に楽しむのです。

昨日，番組でちょっとしゃべったんですけど，僕ね，ものすごく心がけていることがあって。それは自分が丸の真ん中，丸のど真ん中にいるんです。コンパスでいうと，ぴょんと芯をさしてこうやるところ。そうすると今日あった出来事の中で，すごい楽しいことがありました。こっちを見ると，ちょっと上司ともめたり，奥さんとけんかしたり，いろんな嫌なことがあります。それをこうやって引いて，今度は輪っかを，全体を見るじゃないですか。これを俯瞰で見ると，嫌なこと，楽しいこと，両方が見えるでしょ。それをこうやって見て，ああそうか今日は楽しいことが 30，嫌なことが 70 だったと思ったら，もう 1 回真ん中に戻って，嫌だったことに背を向けて，楽しかったことだけを振り返るんです。そうすると，さっきまで 30 しかいいことがなかったのに，嫌なことに背を向けたから，100 楽しかったように思うんですよ。だから，ああ今日も楽しかった。何か分かんないけど，いい１日だった。そう思って寝るんです。そうすると，すごい楽しいんです。

僕は朝，ラジオの『ごぜん様さま』を毎日やっているでしょ。ちなみに『ごぜん様さま』を聴いているという方がどれくらい？拍手で教えてください。(まばらな拍手)。ああ，なるほど，何故こういう時にたたかない人がいるんですかね。みんなで楽しみましょうよ。もう１回聞きますよ。『ごぜん様さま』を聴いている方？(拍手が増える)。増えたじゃない。嘘つきがいるよ，この中に(笑)。

『ごぜん様さま』をやる前に，スポーツの体育社の CM が流れるんですよ。「スポーツ仲間の何とか～，スポーツの体育社。体育社が９時をお伝えします。ピ，ピ，ピ，プー」となった瞬間に，さっき言った輪っかのちょっと俯瞰で見てたところの中にトントンパッって明るいほうを向くんです。それがリスナーの皆さんから，毎朝来る 1,000 通近いメールです。楽しいことばっかり。２時間，「ワーっ」と言って笑って，終わって。「へーっ」てなって。こんなに楽しいことが日常にはいっぱい転がっているんだと毎日思います。毎日，楽しいんですよ。

それはずっと毎日楽しい明かりを見ようと思って，ずっと明るい方を見ているからです。意外としんどい時は，暗い方を見ちゃいます。自分で自分を落ち込ませようとします。それでスッとすることもあります。だからたまに見るのはいいと思うんですけど，あんまり

そこばっかり見てると，自分が不幸のどん底にいるみたいに思うじゃないですか。だけど実は毎日みなさんの周りには，笑いがあふれている。笑顔が転がっている。

よく昔のことを振り返るのが，よくないことみたいに言われるじゃないですか。実は僕は，どんどん振り返りましょうと思うんですよ。

この４月から『カンムリ』という新しいバラエティ番組を深夜に始めたんですけど。企画は大体，自分で考えるんですよ。家に勉強机みたいなのがあって，後ろをパッと振り返ると本棚があるんですよ。この本棚にあるのは全部僕が好きで買った本です。CD や DVD もある。ここに僕の好きな景色が並んでるんですよ。そこをパーッと見ると，ワー，中学校の時に買ったやつだ。高校，大学，これは社会人になって買ったやつだ。ワー，楽しいわってワクワクするんですよ。だって自分の好きなものしかないから。だから，振り返るってことは過去を悔いることではなくて，今まで通ってきた人生の轍を見ることです。だからこうやって見ると，ああのらりくらり来たけど，ああここまで来たねとか。真っ直ぐ来ちゃったね，もう少し寄り道すればよかったかなとか思って。皆さんが例えば，好きで集めているもの，大事にしているものを過去として振り返って見たならば，そこに未来のヒントがあるはずです。

例えば，僕は後ろの本箱の本や CD，DVD，ビデオを見ると，そうかこれ好きだったもんな。これに関しては僕はちょっと詳しいんだよな。これをちょっとだけ積み重ねていくと何か新しいものがあるかも知れないなと思うんです。ゼロから何かを始めようと思うと大変です。歩みってすごいねって思います。

僕ね，映画を自分で監督した時に思ったんです。１本目作る時に「よーい，スタート！」と言わなければならない訳ですよ。言うとね，目の前で僕の６畳の部屋で考えたシーンがリアルに行われるんですよ。僕，「これ見た」と思ったんですよ。だって自分が考えてるからこれ見たわと思って。「カット」と言って。「スゲー，何かデジャブみたい。僕が１回頭の中で想像したやつが目の前にあるわ」と思って。こんな楽しいことが世の中にあるんだと思って１本目を作り終わった。みんなは「横山さんは映画もやってるから映画監督ですよね」と言ってくださるんですけど，まだ一本しか作ってないんですよ。そうすると，動きでいうと，ゼロね，ハイっていうだけ。これだけ。ハイ。これが２本目をもし作ることが出来たら，ハイ，ハイ，でやっと歩みですよ。右が出て左が出たら歩みです。右だけのハイだったら前に進んだだけです。せっかく一歩出したんだったら，こっちも出そう。そしたら歩みになる。楽しいことがいっぱい待っている。失敗することとか，成功することとかは，自分の中にしかないんです。「よかった，よかった」。人がどう言おうが，「よかった，よかった」。幸せはいつも自分の心が決めるんです。だから自分の心が満足すれば，やればいいんです。人が何を言おうが。

僕のアナウンサーの先輩に，上野隆紘という方がいらっしゃいます。70 歳までしゃべって，今は三重県にいらっしゃいます。もうご隠居さんになられました。上野さんはいつも，「横ちゃんさ，アナウンサーなんかさ，間違えても命は取られないから好きにやっときゃいいよ」って言ってました。上野さんは野球の実況で嘘ばっかりついてました。今年のカープは，いよいよじゃないですか。マジック７。その上野さんは昭和 50 年，カープ初優勝の時の実況アナウンサーですよ。「球場のグラウンドのところが黒くなってきました後楽園球場」ってはじめて。何を言ってるか全然分からない。今，後輩が聞いたら「へたくそー」

みたいな実況ですよ。だけどあの時の興奮が伝わるんですよ。

その上野さんの実況を僕は後ろから見ていたんですよ。そしたら「ピッチャー足が上がって第１球を投げた，打った，打球はサードへ，いやいやショート，いやいやセカンド，いやいやファーストがつかんだ。ファーストがボールをつかんで，自らキャンパスを踏んだ，アウト，ワン・アウト。えー，今日はグラウンドがあれています」って。嘘つけーって。お前が言い間違ったんじゃないかよ。「打った打球はレフトへ，いやいやセンター，いやいやライトがつかんだ。今日は風が強い」って，嘘つけーって。旗はだらんとしているじゃないかと思いながら。

でもそれも楽しいんですよ。面白いことじゃないですか。僕はスポーツアナウンサーを７年間やってたんですよ。バラエティ暦が今 22 年目に入ったんですけど。日南キャンプにアナウンサーが行きます，という時に先輩からちょっとしたいたずらをされるんですよ。ものすごいちょっとしたいたずらなんですけど。「横ちゃんさ，日南のカープキャンプに行けるようになったらしいね」と言われて。「行けます。ありがたいことです」と言ったら，「あれさ，生放送を始めた時に気をつけないとさ，言い間違うからね」と言われるんですよ。「何ですか」と言ったら，「カープキャンプレポートが，頭がこんがらがって，キャープカンプレポートになるんだよ」と言われて。「ああそうですか。いやならないと思いますよ」と言うと。「いやなるんだよ。カープキャンプレポートが，キャープカンプレポートになるんだよね」って。「ああ，そうですか。ならないと思います」と言いながら。広島を出て日南に行く訳ですよ。そして夕方のニュースが始まるんですよ。２月なので，６時とか６時半とかはもう真っ暗なんですよ。照明をバーっと当てられて，衛星で電波を飛ばす訳ですよ。広島のスタジオの映像が見えていて。あっ，もうそろそろだなと思ったりすると，「さあ，日南のキャンプレポートです。横山アナウンサーが行っています」と聞こえた瞬間に，「あれ，何か気をつけろと言われたよね」と思って。「何だったっけ，何だったっけ」と思って。キャープとカープだと思い出すんですよ。でね，一瞬頭がパニクるんですよ。ディレクターに「ねねね，今キャンプしてるのキャープ？カープ？キャープかいね？カープかいね？」と言っているうちに，「横山さ～ん」と呼ばれて，「広島キャープのカンプレポートです。今日のキャープは・・・」と延々としゃべり続けるんですよ。もう全然，分からなくなる。その時，ものすごい怒られるんですよ。「何やってるんだ！」って言われるんですよ。でもね，これも笑えるでしょ。楽しいでしょ。怒られたことも笑えばいいです。「何か，言っちゃったよ」って。

今はマツダスタジアムになって広島カープはすごい人気じゃないですか。チケットなんか全然手に入らないでしょ。昔の旧広島市民球場時代はいつ行っても入れましたよ。球場はガラガラだった。RCC からは歩いて球場に行けるんですよ。だから仕事が終わって６時ぐらいに，「ビール飲みに行こうよ，市民球場へ」と言ってたくらいです。行って，ビールを飲んで，「へたくそ！」とか野次って，「じゃあ終わったから，晩飯食って帰ろうぜ」みたいな感じだったですよ。

その時代にね，グラウンドの外野の一番外側，ここを越えてフェンスを越えればホームランというギリギリの所。外野なのに芝生が生えてない所があるんですよ。そこをアンツーカーと言うんですよ。今のマツダスタジアムは，一塁ベースのまわりとか，二塁ベースのまわりとか，三塁ベースのまわりとかにも芝生が生えてないです。なのでそこは，アン

ツーカーと言います。でも昔の旧広島市民球場は，外野の一番外側がアンツーカー。芝生が生えてない所です。

僕の後輩に一柳っていうアナウンサーがいるんですけど。そいつはね「横山さん，あそこ，芝生が生えてないところをアンツーカーと言うじゃないですか。だけどアナウンサーは全然使わないじゃないですか。使いましょうよ。僕らがボキャブラリーを増やすということから逃げたらだめですよ。しゃべりのプロだから。今日，僕は使いますよ」と僕に言いました。試合が始まって，「あいつ，アンツーカーってどうやって使うのかな」と思っていました。普通は，「フェンスにボールが直に当たった。レフトとセンターが追って来た。ボールをアンツーカーの所で捕って中継に返す」みたいなことですよね。一柳君はね，こう言いましたよ。「打った，打球はレフトへ。レフトバック，レフトバック，センターも追っかけて行く。打球がフェンスに当たった。打球をツタンカーメンの所で捕りました」って言ったんですよ。(会場，笑)。ツタンカーメンの所ですよ(笑)。「アンツーカー」と言います，と言った男が「ツー」しか合ってないですよ。「打球をツタンカーメンの所で捕りました」と言ったんですよ。埋まってるの，と思ったんですよ。知らなかったわ。だったら球場はそのままにしとかないと，遺跡なんだから動かせないし，手をつけられないじゃないですか。その日，一柳君がすごい落ち込んでいたから，みんなで会社に戻ってビールを１本だけ飲んで帰ろうということになって，ビールを飲んでたんですよ。そしたら筑紫哲也さんの NEWS23 が始まったんですよ。女子アナウンサーが「筑紫さん，筑紫さんのプロ野球のファンはどちらでしたか？」と言ったら，「広島カープです」と答えて。「そうですよね。今日，筑紫さんの大好きな広島カープがサヨナラ勝ちをしました。ついてはそのシーンをノーカットでご覧ください」と言ったんですよ。みんなが「えー」ってなったら，一柳君の声が全国放送で流れてきたんです。「打った，打球はレフトへ。レフトバック，レフトバック，センターも追っかけて行く。打球がフェンスに当たった。打球をツタンカーメンの所で捕りました」とね(会場・笑)。「サヨナラ，サヨナラ，広島サヨナラ勝ち」。「お前がサヨナラだな」と言いました(笑)。それでニュースが終わって。その後，筑紫さんに映像が戻って来て，筑紫さんが一言「打球はどこまで飛んだんですかね」と言って，CM に入ったんですよ(笑)。これはアナウンサーとしては致命傷です。

一柳君は全然ついてなくて。三次だか，三原だか，福山だか，どっかの地方球場でカープの試合があった時に，放送席にクマ蜂が入って来たんですよ。「ピッチャー足が上がって，ウワー。投球二球目，ウワー」ずっと「ウワー」と言ってるんですよ。その途中に「シュー」って音が聞こえるんですよ。誰かが殺虫剤を吹いてるんですよ。「ピッチャー足が上がって，ウワー。投球二球目，ウワー。シュー，シュー」。RCC は何をやってるんだ，みたいな。致命傷です。だけどそれも笑える。楽しい。

『欲張りライフ』というのが何かという時に，今日もラジオのリスナーの方から 30 通くらいかな，『欲張りライフ』についてメールが来たんですよ。この後，湯﨑知事にお渡ししようと思うんですけど。見てみたらね，「孫が生まれました。孫の世話をしています。楽しくて仕方ありません」が，『欲張りライフ』だったり。「昔，写真をやっていました。昔は写真は撮ったら現像に出して，上手く撮れたかどうかよく分からなかったけれど，今はデジタルになりました。撮った写真がすぐに見られる。だからまた写真を始めました。写真を撮るためにはいい景色を探さなくてはいけないから，山に登るようになりました。これ

欲張りですよね」というメールもありました。さっき言った，僕の後ろの本棚と一緒です。昔やってたこと。昔好きだったことが，今は便利になったので，またそれを始めました。という方がたくさんいました。なんだ『欲張りライフ』って，目の前に転がってるじゃん，と思うんです。

さっき言った，カレンダーに丸をする。新しい靴を履いてみる。今日，皆さんがこのきりりから帰る時，車の方，歩きの方，自転車の方がいらっしゃると思うんですけど，来た道とは違う道を帰りましょう。そうすると，「あっ，ここ今こんな店ができたんだ」「あら，ここは前に何があったかいね」と思うだけで，ちょっとだけ冒険している気になります。

僕らの日常がそうです。例えば，「横山さんは朝 9 時から，毎朝，毎朝，いろんなことをしゃべっとるよね。横山さんにはすごい面白いことが起こるね」と思うかも知れないです。でも僕も皆さんと一緒です。何にも起こらないです。だけど，一個一個を面白がるということでは皆さんよりもちょっと欲張りかも知れません。貪欲かもしれない。「面白いわー」と思っている。

今日，僕は三次に着いて 1 番最初にやったことは，湯﨑知事がどんな服を着ているのか気になって，見に行ったことですよ。僕は白いスーツを着て来たでしょ。これは勝負服。打倒，湯﨑の服です(笑)。この後，対談があり，その後，他の部屋で写真撮影があるようです。広島県の広報だよりにそれが載るんです。100 万部刷られるんです。僕の人生で 100 万部も刷られるようなものに載ることがないから，「よし今日は勝負服だ」と思って。見えないけどパンツも勝負パンツね(笑)。

せっかく来たのに「あー」と思ったんですよ。スーツ着てしゃべると汗をかくじゃないですか。汗ワキパッドを買おうと思ったんですよ。三次の高速を降りてすぐに街中に行ったら何かあるだろうと思って，ひたすら走ったらウォンツがあったんで汗ワキパッド 598 円のを買って，スーツの内側にこうやって貼りました。人生初の汗ワキパッドですよ。で湯﨑知事を見たら半袖だったんで，「何だよ！」と思って。「そんなんでよかったのかよ！」と思って。でもこれも僕の中で今日の楽しかったことのひとつですよ。「三次に行ってすぐやったのが，ウォンツに行って汗ワキパッドを買ったんだよ。初めて付けたけど，あれくっつかないんですよね。すごい変な所にくっ付くんですよ」。わー，大変だわと思いながら，それで今日の午前中は楽しかったんですよ。

こうやってきりりに来るでしょ。皆さんの前でしゃべるでしょ。楽しいでしょ。これから知事と話すときっと楽しいですよ。一個一個，一個一個を楽しむ。ただ汗ワキパッドを買っただけですよ。たぶんこれを僕は何年かしゃべりますよ。「三次に行った時さー，きりりに行くのにさー，湯﨑知事がさー」とか言って。

「『欲張りライフ』を送るために，横山さんは何かされていることがありますか」と聞かれました。じっくり考えてみて，僕は何でも好奇心を旺盛にしようと思っています。好奇心旺盛じゃないんです，好奇心を旺盛にしようとしています。それはなんだろうなと思ったら，僕は寝るのがだいたい夜中の 3 時です。どんなことがあっても寝る前 1 時間ぐらいは，何かボーっとしたいんです。何かボーっと。なので，その時間を何とかキープしようとします。そうすると 3 時に寝るでしょ。7 時半に目覚ましをかけて，朝，パンを食べて，シャワーを浴びて，服を着て，車で会社へ行って，会社に着くのが 8 時 40 分です。生放送が 9 時から。20 分前に会社に着くんですよ。たまに渋滞してると，本当に間に合わない時

があるんですよ。

会社に行って，結局４時間半しか寝てないでしょ。だから番組が終わったら眠くなります。15 分でも 10 分でも，30 分あったらうれしいですね。すぐに寝ます。コトって。どこでも寝ます。これは何でかと言うと，起きている間に誰かから「横山，今日飲みに行こうぜ」とか，「ご飯食べに行こうぜ」と言われたときに，「いいよ」って言うためです。誘いは断りません。その誘いを断らないということが，毎日毎日，誰かが僕に何かをさせてくれるんですよ。CD を出すのも，本を出すのも，レーシングドライバーになったのも，映画を作ったのも，みんな誰かが僕にさせてくれた。僕に楽しい時間を提供してくれる。どうして僕に電話をして来るかと言うと，断らないからです。「いいよ」と返事をする。これが睡眠不足だったら眠くなるじゃないですか。だからどっかのタイミングで，この先，今日の，未来の中に何があるか分からないから，ちょっとでも時間があればすぐにコトンと寝る。寝坊したらまずいと思ったら，携帯の目覚ましをかけて，５分でも 10 分でも寝るんですよ。ちょっとずつちょっとずつ寝てると，トータルで考えるとみんなと同じくらい寝てるのかなと思います。

自分の中で欲張りに人生を過ごすためのライフスタイルというのがもしあるとしたならば，空いた時間があったら寝るということです。そうすると起きてる時間が元気です。元気だということは脳みそがよく働くし，いろんなアイデアが浮かぶし，いろんなことを楽しいと受け止めるだけの自分がいるということです。最近，健康年齢といいますが，いつまで健康でいられるか，いつまで笑っていられるかというのは自分にエネルギーがあるかどうかだと思います。「よし，今日も元気に過ごそう！」「よし，楽しもう！」と思うと，きっとそれが待っています。「ああ，ちょっと面倒くさいな」「ほら，やっぱり面倒くさいじゃん」「ほら，来るんじゃなかった」と思ってたら，その時間が全部無駄になるので，このつまらない時間をどうやったら楽しめるのかというのを自分で前向きに考えるようにくせをつける。努力ではなくて，くせをつける。するときっと欲張りになれると思います。

最後に，どこに行ってもこれは話すんですけど。僕は島田紳助さん，もう引退されましたけれど。島田紳助さんと前に仕事をさせてもらったことがあります。入社２年目ぐらいだったと思います。すごい怒られました。何で怒られたかと言うと，司会をさせてもらったのに，何のチャレンジもしなかったからです。紳助さんに呼ばれて，「ねえねえねえ新人君。君はさ，せっかくのチャンスなのに，失敗しないように，うまくまとめようとしたよね」と言われて，「はい」と言ったら。「それさ，もしそんな仕事の仕方をするんだったら，ベテランの人に頼んだ方がいいんだよね。君をキャスティングしたということは，何か失敗するんじゃないか，何かしでかすんじゃないかと思って，それを期待したんだよね。だから恐る恐るやるんだったら，君じゃない方がよかったんだよね」と言われて。「あっ，確かに」と思ったんです。僕は失礼がないように，滞りなく済むように，それしか考えてなかったのですよ。

紳助さんに，「次に会う時までにさ，僕が普段考えていることを言うからさ，そういう人になっといて」と言われたんです。「はい」と言ったら。首をつかまれて，「向こうの壁まで飛べ！と言ったらどうする」と言われたんです。「どうしますかね。思いっきり飛びますね」「そうだよね。でもさ，ここから飛ぶよりさ，さがって，助走をとって，ポンと行った方が飛べない？」と言われ。「そうですね」。「これどういうことかな。目標から遠ざかると

いうことだよ」と言われました。「じゃあもうひとつ。天井に手が届くか？ジャンプしてごらん」「はい」と，ひざを曲げて飛び上がりました。「はい，待って。これどういうこと」「目標から遠ざかるということです」。目標から遠ざかるとバネができます。でもここまで来たと思うと後ろにさがる勇気が持てないです。だけどここまで来たのは自分の力です。だから自分のことさえ信じていれば，どんなにさがってもあそこまで行く実力は持っています。これができるときっといろんなことが楽しく，能動的に進んでいくんだろうな思います。例え，アンツーカーをツタンカーメンと言おうが，サードゴロをファーストゴロと間違えようが，レフトが捕るはずのボールをライトが捕ったと言おうが，命は取られないんです。

最近僕が１番好きな言葉は，「死ぬこと以外は，かすり傷」。これを考えたら何をやっても大丈夫です。きっと皆さんの人生が，帰りにちょっと道を変えるだけで大きく変わると思います。僕はそうやって欲張りに楽しむこと。小さいことを積み重ねていって今があります。それで経歴を「すごいね」と言われるのですが，決してものすごい努力をして，皆さんと全然違う人生を送っている訳ではないです。まったく一緒です。なので，次に皆さんとお会いする時に，「横山さん，私これを始めたよ」とか「今，あれをやってるのよ」というのが聞けたらうれしいなと思います。

今日はこの後も湯﨑知事といろんなお話をさせていただきます。ご清聴，ありがとうございました。

●湯﨑知事

横山さん，どうもありがとうございました。

○横　山

話しにくかったです。知事がそこにずっといらっしゃったから。さがんないかなと思いながら(笑)。

●湯﨑知事

ライトを浴びて，動きながら話されたので，汗をかいて，ワキ汗パッドが役に立ったんじゃないですか。

○横　山

役に立ったのかな。

●湯﨑知事

本当にありがとうございました。

○横　山

楽しんでいただけましたか？大丈夫だったですか。(会場拍手)よかった。ワキ汗パッド，本当に付けてるんですよ。

●湯﨑知事

僕はそういう商品があるというのも知らなくて。そんな便利なものがあるんだと思いました。

○横　山

いつも汗をかいて，スーツからも出てくるんですよ。

●湯﨑知事

汗っかきなんですね。

○横　山

発汗がいいんです。顔もいいけど，発汗もいいんですね。

●湯﨑知事

私が県知事に就任してから６年間ずっと，「チャレンジ・トーク」というのを各市町でやっていて，いろんな挑戦をしている人に出てきてもらいました。横山さんには，それに出ていただきたかったという感じがします。横山さんは欲張りなんですけど，皆さんと変わりませんよというお話がありましたが，それはずいぶん変わるような気もするんですけど。どうですかね，欲張りになるヒントはいろいろいただいたところですが。特に横山さんの場合はお仕事の延長でいろいろやられることもあるし，まったくプライベートでやられることもありますよね。この区別はどうつけているんですか。

○横　山

迷ったら楽しい方，迷ったら明るい方と思いますね。水戸黄門の歌じゃないですが，「人生楽ありゃ，苦もあるさ」だと思うんですよ。いっぱい走った後に飲むビールは美味しいじゃないですか。だけど水を飲んだ後にすぐにビールを飲んでも，ワーと思わないじゃないですか。だったら多少頑張ったら，この後に美味しいビールが飲めるとか，冷たい水がより美味しく感じると思ったならば，「あっ，こっちだな」と決めます。こっちが楽そうだなと思って，手を出すこともちろんありますけど。なるべくならば楽しい方。あとは人と関われる方を選ぶようにします。自分ひとりでやることになると，たぶん欲張りに生きるためには１番その生活を邪魔するのは自分自身だという気がするんですよ。

●湯﨑知事

自分が選ばないことが，実はやらない理由になっているということですか。

○横　山

たぶんほとんどの方が分ってくれると思うんですが，ダイエットがそうですよ。「ダイエットしよう！明日から」と思うじゃないですか。なんで今日からやらないんだよと思うじゃないですか。次の日には，「絶対やせる，明日から」と思うじゃないですか。あれは絶対に自分が自分の邪魔をするんですよ。だから誰か見張り番がいる。「ダイエットします。１ヵ月以内に５キロやせます」と誰かに言うと，なんか恥ずかしいからやらなきゃいけなく

なるじゃないですか。そうすると仲間たちがいる場所とか，人と関わることが多い方を選ぶと逃げられなくなるんで，やらざるを得ない。

あと小さいことで言うと，さっき皆さんにお話しましたけれど，毎日を，ちょっとしたことをすごく面白く思うことと，それを人にしゃべることだと思います。知事，知ってますか？今日，手話通訳の方がいらっしゃるじゃないですか。ウサイン・ボルトがいるでしょ。オリンピック３大会で連続金メダルを取った。ウサイン・ボルトの手話通訳はどうやってやるかというと，こうやってやるんですよ。ちょっとやってみてください。ね，こうですよね。ちなみに，エグザイルの手話通訳はこうやるんですよ。ね，エグザイル。ほら。(笑)こういうのを知るだけで「へー」と思って楽しいじゃないですか。ちっちゃいことの積み重ねが，僕の生活を支えていますね。

●湯﨑知事

それって実は，あきらめないということもあるんじゃないかと思います。ひとつは関心を持つ，あるいは好奇心を持つこと。そしてそれをあきらめない。そういうのはポイントですかね。

○横　山

そうですね，それは話の中でもちょっと言わせてもらいましたが，努力すればなんでもかなうという訳ではないけど，だけど努力しておかないとせっかく来たチャンスを逃してしまう。継続していることが当たり前になるようにもっていく。

知事は東大卒でしょ。僕は第一経済大学なんですよ。調べてみると偏差値が 40 違いました。40 ですよ。勉強ができる方，いい大学に行かれた方は，嫌なことをずっと続ける能力があると思うんですよ。僕らみたいに，たぶんこの中はほとんど勉強はできなかった方だと思うんですが。顔を見たら分かりますよ。みんな僕と同じような顔をしていますよ(笑)。僕みたいに勉強ができなかった人たちは，嫌なことを続けた経験が少ないんですよ。

●湯﨑知事

でもお仕事の時は嫌なこともいっぱいあるんじゃないですか。

○横　山

いっぱいありますよ。でもそれはお金がもらえるから，がまんできるんですよ。それが学生の時の日常生活ではできないです。部活動の夏合宿で監督とかコーチがいて，頑張らないとレギュラーにしてもらえないから頑張れるんですが，受験勉強は自分だけでやるでしょ。頑張れないんですよ。だから，頑張るんじゃなくて，日常の中で継続できるように，これをすることを楽しむ。うまく苦手なこととつき合っていけるように楽しみ方を工夫する。くせづける。それはやってます。

●湯﨑知事

人によっては，例えば，仕事と趣味や子育てなどを考えた時に，仕事が忙しいから子供はあきらめよう。逆に，子育てがあるから仕事はあきらめようと思うのですが。それを自

分が好きなことだったら，あきらめないで頑張ってみようと思う。それが大事なことなんですね。横山さんの話の中で，好きなことがもうひとつのポイントだったと思うのですが。いろんな好きなことがあって，例えば，レーシングドライバーをやるから映画監督はやめとこうとは考えないんですよね。

○横　山

そうです。あれもこれもと思ってますね。

●湯﨑知事

好きなことはすべて実現する。それはなかなか難しいとは思いますが，自分で枠をはめて，仕事が忙しいんだからこっちはできない，とは思わないんですよね。

○横　山

思わないですね。「寝なきゃいいんでしょ」ぐらいに思っているところがあって。

●湯﨑知事

皆さんは寝たいと思いますよ(笑)。

○横　山

大丈夫ですよ。年取ったら一生寝てますから，安心してください。絶対大丈夫ですよ。

知事もそうだったと思うけど。皆さんも僕もそうだったですけど。恋愛をしている時。「もう忘れたわ。恋愛なんかしたかいね」みたいな顔をみんなはされましたけど(笑)。あの時って，寝る間も惜しんで会いたかったじゃないですか。

●湯﨑知事

そうですね。寝ながらも考えてたりしますよね。

○横　山

好きなことって，寝る間を惜しんででもできるんですよ。だからたぶん，欲張りに生きるために，好きなこと，気になることが自分の中で，恋愛の大好きだった人みたいになれば，いろんなことを惜しんでもそれがしたいなと思えるじゃないでしょうか。だから物事を恋愛みたいに思ってますね。両思いだとか，今はまだこれだと片思いだなとか。物とかできごとに対して擬人化することはありますね。

知事は何か欲張りなことはされているんですか？

●湯﨑知事

仕事も忙しいですけど・・・。

○横　山

知事は面が割れてるから，何もできないでしょう。

●湯﨑知事
いやいや，そんなことはないですよ。

○横　山
コンビニでカップめんとか買えないでしょう。

●湯﨑知事
いや，買いますよ。子供のおやつやアイスを買いに行ったりします。

○横　山
生活がしにくそうですね。

●湯﨑知事
それは横山さんも同じじゃないですか。

○横　山
いや，僕はエロ本を買ってても大丈夫だけど。知事はまずいでしょう。知事は模範たる人じゃないといけないじゃないですか。

●湯﨑知事
それはそうですね，必ず横断歩道を渡りますね。

○横　山
絶対，そうですよね。

●湯﨑知事
横断歩道じゃない所を渡っていて見られたら，やっぱりまずいと思いますね。

○横　山
知事は横断歩道じゃない所を渡るのが，『欲張りライフ』だったりするんですか(笑)。
知事や僕は，立場はあるけれどチャレンジしていることがある。楽しんでいることがある。普通の方々も実は暇とか時間はある気がするんですよね。

●湯﨑知事
作ろうと思えば，作ることができるということですね。ポイントは，好きなことにするということ。そして自分で，できないと決めないことですね。

○横　山
それを楽しむようにしてる自分を好きになるということ。そうすると，「私は最近アクテ

ィブよね。そんな私，今いいよね」となる。

●湯﨑知事

なるほど。自分の好きなことをやっていると段々高揚してきますよね。

○横　山

これからのシーズンは暑さもちょっとやわらぐでしょ。散歩しやすくなる。ちょっと外に出る。それこそ新しいスニーカーをはく。近所の人に会うと，だいたいおばちゃんは,「あらあら，誰にも会わんと思ってこんな格好で来たけど，いつもはきれいなんよ」とか言うじゃないですか。「嘘つけ，いつもきたないよ」(笑)。

でもそういう人が，かわいいスニーカーをはいていてほめられると，なんかそれだけでウキウキするし。「じゃあ今度はジャージでも買おうか」と，ちょっとずつ気持ちが明るくなる。自分の味方も敵も，１番は自分じゃないでしょうか。

●湯﨑知事

はい，ありがとうございます。実はこの後も，県民のみなさんの中で『欲張りライフ』を送っていらっしゃる方に登場していただきます。また一緒にお話をお聞きして，いろいろ突っ込みを入れていただければと思います。

○横　山

分かりました。

●湯﨑知事

よろしくお願いいたします。ありがとうございました。

○横　山

ありがとうございました。この後もよろしくお願いいたします。

３．あなたの周りの「よくばりさん」の「欲張り自慢」

欲張り自慢①

○月　橋

はじめまして，三次市甲奴町から来ました月橋と申します。よろしくお願いいたします。横山さんみたいに上手にしゃべれない素人なので，よろしくお願いいたします。

私がＩターンでこの三次の甲奴町という所に来させていただいて 12 年ぐらいです。いつもこのスライドを最初に使うのですが，大学時代はもてたいという思いでロンゲの金髪，バイクに乗るという欲張りでした。広島市内で生まれて岡山の大学に行き，こういう大学生活を送っていました。その後は商社で働いていました。最後は所長になったんですが，自分で何かをやりたいと思い，甲奴町の大学の先輩を頼りに，家族でＩターンさせていただきました。今は『リピカ』という自動車用の洗剤を作る会社をやっています。

会社のことを話すと 10 分で終わらなくなってしまうのですが，最初に商品を作っていろいろと営業をさせていただきました。東京へ行ったり，それこそ車で年間 7 万キロぐらい走って営業させていただいて，土曜日も日曜日も働いて，時間がないという状態になっても，最初の頃は一生懸命にやっていました。

私は常に考えていて，一番大事なのは考えるということが自分の中では大事だと思っているのです。商品もいろんなことを考える時間がないと何もできないと思った時に，というかこれしか方法がなかったのかも知れないのですが。普通，会社で営業をやめるというと，一番大事なことなのに何でやめるんだろうと思うのですが，営業，売り込むことをやめました。得意なところを伸ばしていこう。長所を伸ばすことを考えました。うちの長所は，商品力やデザイン力，優秀なスタッフです。僕が 1 週間ぐらいいなくても出荷もできますし，1 日 400 件ぐらいある注文にも対応ができるような在庫などの準備をやっていきました。インターネットがあるので，どんな所だろうと商売ができます。いい商品を作ればどこでも商売ができます。今はいろんなところに販売させてもらっています。

その中で考える時間を作らないと，仕事も他のことも何もできないので，車用の洗剤を作りながら，こんなの売れるかなと思い，新商品の「筆シャン」を作りました。広島県の熊野町では書道用の筆，化粧筆を作っています。とんでもない数を作っていまして，国内でも書道用の筆は約 80%。化粧筆は約 90%も作っています。それを洗うものがないというご相談がありまして，それこそイノベーション，コラボレーションで新しいものを作ってみようということになりました。「筆シャン」は書道用の筆のシャンプーです。筆を洗う洗剤は世界でうちしか作ってないという欲張りな商品を作ることができました。

趣味の部分でいうと，釣りが好きです。田舎に住むことが自分にとっては楽しいのですが，そこで商売をさせていただいて，ただ遊びも大事だと思っています。広島県は知事もご存知だと思いますが，瀬戸内海はすごくきれいな所で，魚もいろんな魚種が釣れる。これは自慢なんですが，75 センチの鯛を釣りました。80 センチをどうにか釣りたいと考えています。釣りに行く時間を作ることを考えて，仕事の段取りなど，いろんな工夫をしています。

野菜は近所からもらいます。みなさんは三次の方なのでたぶんそうだと思うんですけど。誰もいないのに朝，玄関に野菜が置いてあることがよくあります。この前，街に住んでいる同級生が遊びに来た時に，「玄関に野菜が置いてあったら，何か入っとるかも知れんし，わしは食わん」と言ってました。三次だったらそんなことは思わないですよね。「あっ，このおばあちゃんかな，あのおじいちゃんかな」ぐらいにしか思わないので。そんな田舎は最高だなと僕は思います。その同級生は「新築で庭も造ったのに，家でバーベキューもできん。バーベキューをしたら近所から，うるさいとか，火を使っちゃだめとか言われる」とも言っていました。ここでは考えられないです。甲奴町ではどこでもバーベキューができます。写真は甲奴町のお盆野球のものです。僕も初めて知ったんですが，61 年間続いている。お盆に帰って来た人や甲奴町民が野球のチームを作って地区ごとに対戦するものです。僕は西野という所に住んでいるんですが，息子が野球に出させてもらって，なんと 61 年で初めて優勝しました。そういう和気あいあいとした雰囲気が僕の欲張りなところだなと思います。息子は野球をやっているのですが，盆野球では普段は全然打てないのに 3 試合で 5 本もヒットを打ちました。初めて見ました。

そこにもつながるのですが，僕は子供のために，息子が中３になって野球部の保護者会長になりました。僕が保護者会長を引き受けた時，全部の試合に行くと決めました。送迎や審判の仕事もあるんですが，それがなくても僕は全試合に行くことにしました。この前，保護者会長は終わったのですが，もし今日が息子の試合だったら，ここで話すことはお断りするかもしれないと県庁の方には言いました(笑)。僕は子供のために時間を費やしたいと思っているからです。子供ってすごいと思います。本当に一生懸命で，そこからまた僕がパワーをもらえます。子供とか若い子からも，「ああ，そんなことを考えとるんか」と，僕はたくさん学ばせていただいているので，子供たちのために何かしてあげないといけないと思っています。

昔はよかったと思うんですが，今は，「東京の方に就職しなさい」とか，「町の大学へ行って，大きい企業に就職しなさい」と言われ，子供たちはどんどん地元から出て行ってしまい，そのまま帰ってこないという状態になっています。僕の最終目標は，大人が楽しく生きていて，子供たちが「あのおじちゃん，楽しそうにしとるけど何しよるんかね」と思ってくれて，地元に帰って何かしたいなと思ってもらえることです。そうなるために頑張っています。やっぱり大人が楽しく生きてないと子供たちが帰ってこないんです

僕は会社を経営しているので，雇用を増やすことも僕の中では大きな目標です。Ｉターンで甲奴にやって来た僕を，甲奴の人たちはものすごく優しく受け入れてくださいました。僕は地元に貢献をしたい，会社を大きくして雇用を増やしていきたいと思っています。

僕は時間をどうやって作るかということを常に考えています。お笑い芸人が，お笑いで売れていくためにはどうしたらいいかという時に，お笑いのことばっかりを常に考えている。たぶん横山さんも先程いい話をされていましたけれど，お笑い芸人の人も，たぶん 24 時間ずっと，何をやったら面白いかなということを考えていると思うんですね。僕もどうやったら時間が作れるかを考えています。楽しい商品とか，何か新しいものはできないかなと考えることを一番大事にしています。仕事以外にも結構やっていることが多いので，仕事の量を減らすようにしないといけません。仕事の量を減らしながら売上を増やしていく方法を考えています。

普段は，嫁さんが看護師で週に 1 回は夜勤があるので，その時は洗濯からご飯作り，洗い物，弁当もつくったりします。商工会青年部にも入っています。小学校，中学校の行事もあるし，野球もあるし。そんなん言ったらたくさんあるんですが。まあ一個一個を楽しくやっていけたらなと思っています。全部やっていきたいというのが，僕の欲張りなところです。以上です。すみません。

●横　山

月橋さん，真ん中にどうぞ

○月　橋

すみません，時間の感覚がちょっとよく分からなくなってしまって。

●湯﨑知事

いやまだ２分ぐらい残っていますよ。

○月　橋

そうですか。

●横山・湯﨑知事

面白かったです。ありがとうございます。

●横　山

子供のためにという話は，確かにそうだと思いました。

●湯﨑知事

野球の試合に必ず行き，洗濯もし，お弁当も作り，さらに売上も伸ばす。これはなかなか大変だなと，はたから見るとみなさん思うと思います。

●横　山

途中から，欲張りというより自慢話に聞こえてきました(笑)。

○月　橋

でもまだあるんですよ。消防団とか，神楽もやっています。

●横　山

この人は，まだ自慢をやめないですよ(笑)。

●湯﨑知事

すごいですよね。でも人生，1日はみんな24時間しかないじゃないですか。これは平等ですよね。

●横　山

僕は49歳になって，三次もそうだと思うんですが，この地面は子供たちのためにある気がしてならないんですよね。それは自分たちが親に育ててもらって，注いでもらった愛情をちゃんと返して，自分たちが自由に遊ばせてもらった地面を次の子供たちにちゃんと渡す。それが今できてるかな，どうかなと思った時に，子供のために全部時間を使いたいと思ったりします。今年のリオ・オリンピックは，親子の話だった気がしてならないんですよ。親が子供の才能を信じてあげて，「大丈夫だ，できるんだよ」と親子で金や銀，銅メダルを取ったストーリーをたくさん見せてもらった気がして。甲奴にも月橋さんがいたんですね。

○月　橋

ありがとうございます。いや僕だけじゃなくて甲奴は，他にもたくさんそういう人がいるんですよ。ものすごく楽しいですよ。みんなで「何かやろうや」と言ったら，すぐに動

いてくれて，いろんなことができます。

●横　山

バーベキューがどこでもできるっていいですね。番組でも話したんですが，今，広島市内は花火をしようと思ってもどこもできないんですよ。それを考えたら，バーベキューができるのかと思って。甲奴はいい所だと思いましたよ。

○月　橋

僕は野球をやったことがないのでベンチにいるんですが，息子が出て，試合が終わった後はメンバーとその家族みんな，全員でバーベキューをするんです。

●横　山

知事，今度，花火とかバーベキューしたい時は月橋さんの所に行きましょう。

●湯﨑知事

いいですね。僕はバーベキューが趣味ですから。

○月　橋

知事が来たらものすごい緊張しますけどね。

●横　山

鶏肉は僕が故郷から持ってきますから。

○月　橋

バーベキューは，僕らは普通にやっています。通りかかった人が，「ああ，バーベキューやっとるんか」と言って，近所のおじさんとかが，「ちょっと俺も食うわ」みたいな感じで，どんどん人が増えていったりして。よくあるんですよ。

●横　山

知事はイクメン宣言をされたじゃないですか。ということは今，子供と時間を過ごすことがなかなか難しいということですよね。子供と過ごす時間は，とても豊かでぜいたくな時間でしょ。それを当たり前のように作ろうとされていることが何より欲張りだなと思うし，うらやましいなと思いました。

●湯﨑知事

釣りに行くお話の中で，「時間を作るために仕事の段取りをやります」とおっしゃいました。子育てとか，バーベキューとかも含めて，段取りをして仕事の量や時間を減らして売上を伸ばす。それをいつも考えているのがひとつのポイントかなと思いました。

●横　山

やっぱり結局は，時間の使い方なんでしょうね。時間をどうやって有効に使うか，どこで手をゆるめて，どこの手綱を締めるかみたいなことがうまい人が，『欲張りライフ』ができるんでしょうね。

○月　橋

例えば，自分で広島市内に営業に行ったら，１時間半かけて行き，また帰る。３時間が車の中になります。他は何もできないので，そういう時間は常にいろいろ考えています。そうしないとさっき言ったみたいに，いっぱいやること，やりたいことがあるので。

●湯﨑知事

もうひとつは横山さんと同じで，やりたいということがいっぱいあって，それをやらないとは決めないということ。それもひとつポイントかなと思います。

●横　山

これやってるから，これはやめとこうじゃないですよね。これもやって，あれもやって，これもやって，みたいなことですよね。

●湯﨑知事

山に住んで，釣りに行って 80 センチの鯛をねらっている。海のそばに住んでいても普通は 80 センチの鯛はねらわないんですけどね。

●横　山

自慢になりますけど，「これ 75 センチですよ」と。いや，さっきからずっと自慢話をしてるじゃん，と思いながら(笑)。でも結局，そういうことなんですよね。「僕の生活を聞いてください」とか，「魅力的でしょ」ということですよね。

●湯﨑知事

仕事も含めて暮らしを楽しんでますよね。

○月　橋

最後にも書いたんですが，やっぱり楽しい大人を見て，子供たちは思うところがあるんですね。

●横　山

僕も本当にそう思います。昔は親の背中を見て育つと言ってたけど，最近はいろんなものに埋もれてきているので，親が正面から子供をちゃんと見て，対話することが大事な時代なんだろうなと思います。それを月橋さんはされているし，それこそ知事もされているので，これからはいろんな方々が将来大人になる子供たちに，愛情という欲張りなことをたくさん差し出せたらいいですね。それが豊かな生活なんだろうなと，月橋さんの話で思いました。ただまあ自慢感がありましたがね(笑)。

○月　橋

すみません，自慢してくださいと頼まれたから，まあちょっと自慢したんですけど。すみませんでした(笑)。

●湯﨑知事・横山

ありがとうございます。

○月　橋

ありがとうございました。

欲張り自慢②

○福　元

こんにちは，ふくふく牧場の福元です。庄原市口和町でジャージー牛４頭を放牧飼育し，その牛乳からチーズを作り販売しています。夫婦経営です。

牛のエサは自然の草プラス育てた牧草です。この写真はチーズ工房から田んぼを挟んで向かいの丘にある牧草地です。放牧地です。牛が４頭見えるでしょうか。こちらになります。左上から「みみ」「こごみ」「もも」。右の黒っぽいのが「つくし」です。私たちは人間にも牛にも自然環境にも健康な酪農を心がけています。牛は本来，草を食べてお乳を出します。輸入飼料や配合飼料に頼らず，草で牛を育てたいので放牧に適したジャージー牛を飼っています。放牧地は４ヘクタールほどを整備しながら，耕作放棄地で牧草を育て，冬のエサ用に干草にします。また，この６月からは放牧地の草だけではエサが足りず，２日にいっぺんほど牧草を刈り取って与えています。

安心して毎日，子供に食べさせられるもの。そうしたものを作るというのがモットーです。大事な人たちに，美味しさと幸せな気持ちを届けたいとの思いで作っています。

牛たちのエサとなる草を生み出す大事な土壌。その土壌の健康にこだわるところからチーズ作りは始まります。そして牛たちをできるだけ自然な形で健康に幸せに飼いたい。そうやって絞る牛乳は，風味が豊かなのにサラッとさわやかです。チーズは素材の栄養と味をこわさないように低温殺菌し，添加物や保存料を使わずに丁寧に手作りしています。牛のエサである草は，季節によって変わるので，牛乳やチーズの風味も季節で変わります。

チーズは直売所での販売，全国発送，少量ですが卸しと配達もしています。毎月定期購入してくださるお客様や共同購入してくださるお客様とのお手紙などでのやりとりは，とてもうれしいものです。

イベント出店での販売は，月に１，２回から，多い時は４，５回ほどあります。近隣の小さなマルシェから，広島の大きなライブイベント，友人のやぎ牧場で開催されるもの，尾道で月１回開かれるマルシェなどさまざまですが，どれもお客様や他の出店者さん，スタッフの方々との交流はとても有意義です。楽しいのはもちろん，それぞれの目的や雰囲気や工夫に感じ入り，考えさせられます。暮らしや社会をも豊かにするようなお買い物もとても楽しみですし，物語のある素敵な物，素敵な人，新しく何か楽しいことが始められそうなきっかけとの出会い，友人知人と親交を深める時間でもあります。

もののつながりといえば，口和町のパン屋，こりんさんがうちの牛乳で試作に試作を重ねて，優しい味のカスタードクリームを作ってくださいました。私のお気に入りは，三次ピオーネのクリームパンです。他にもチーズを使って美味しいパンをいくつも生み出してくださっています。

写真右上の玄米コーヒーと左下のノーニュークス・ステッカー，缶バッジは，うちでも販売させてもらっています。玄米コーヒーは，庄原市比和町でご夫婦でお米から無農薬で作られています。私たち家族も愛用しています。作っている人にも，商品にも惚れて使わせてもらっています。広島の作家さんによるノーニュークス・グッズは，原発はいらないという私たちにとって大切な意思表示をかわいらしく，普段から示すことができ，気に入っています。

左上のショルダーバッグは，イベント出店を通じて知り合い，親しくなった友人のハートワークカンパニーさんにオーダーメイドで作ってもらいました。ほしいと思っていた通りのものが手に入ったというだけでなく，顔の浮かぶ友人が真心を込めて作ってくれたものを日々身につけられることの幸せを感じます。人のつながりに生かされ，素敵なものたちを介したつながりが暮らしを彩ってくれています。ぜいたくなことです。

原発事故によって福島県いわき市から広島に避難移住し，大勢の方のお世話になって口和町に移住して４年。牧場とチーズの販売を再開し３年。こうしたありがたいつながりができてきたことが，何よりもうれしいです。

この２月に次女を出産する際にも，本当に多くの方に支えていただきました。核家族で近隣に家族や親戚はいませんが，出産前後のことを気にかけてくれた方，実際のサポートの多さに支えられ，隣人，友人のありがたさが身にしみました。

教員をしていた経験からお話をいただき，家庭教師や寺子屋もしています。この写真は，夏休みに口和の小学生 20 数名で行った『英語で遊ぼう』の様子です。下の写真は，高野町の英語塾です。ベビーカーが置いてあるのですが，夫の手に負えなくなり，先月から次女を連れて行っています。子供たちも職員の方もあたたかく受け入れてくれています。

現段階では，暮らしの中心は仕事と子育てです。３歳の長女は保育園の年少組で，大変活動的な時期です。７ヵ月になったばかりの次女は授乳中。後追いも始まり，高速ハイハイで目が離せません。牛を飼い，草を育てるところから，チーズの製造販売まですべてを夫婦で行っています。住居脇に直売所があり，イベント出店や牧場体験は土日祝日に集中します。子供を後まわしにすることも少なくありませんし，家族そろって遠出する機会は月１回を目標にしていますが，かなわないこともあります。そうした中，口和のような自然豊かな土地に暮らすことは大きな助けです。さまざまな虫，四季折々の草花，土いじり，満天の星，広い空，木苺狩りや摘み草も。日々の生活の中で子供にも，私たち夫婦にも，喜びや遊び，癒しを与えてくれます。長女は２歳から，わらびやふきなども覚えて採ります。オオバコの茎で相撲をとったり，南天の実でおままごとをしたり，葉サンショウをポンとたたいてかいだり，梅ジュースを作ったり，栗拾いなども子供には楽しみです。

牧場体験は私たちの酪農の理念とスタイルを知ってもらいたい。食，環境，農と命について関心を深めてもらいたい，と始めました。乳絞り，バター作り，カッテージチーズ作り体験を予約で受け付けています。チーズを使ったお料理をしたり，原発事故による避難の体験についてお話をさせてもらうこともあります。五感で感じている様子の子供たちの

表情，熱心に質問してくださる方々，子供会や地域の子育て支援事業，中学校の部活動などで来ていただいたり，ご家族で，カップルや同窓生，仕事仲間，パパママ友だち，庄原市内やお隣の三次，島根から，遠方では神戸や大阪，四国，山口から。出かけて行かなくても，この牧場でさまざまな人たちと交流できる牧場体験は，私たち家族の楽しみにもなっています。他には中学校の５日間の職場体験，小学校での仕事の話の時間，この夏は宮崎県立農大の女子学生が，１週間の研修にやって来ました。牧場が社会とのパイプとなり，私たち自身の目が開かされたり，学ぶきっかけをもらっています。

私たち夫婦にとって，仕事は自分たちが生きていく上で大切にしたいことをかなえていく場です。身のまわりの自然から生きる喜びを感じていたい。次世代に豊かな自然環境を残したい。誠実なもの作りをしたい。子供に毎日，安心して食べさせられる美味しい食べ物を作りたい。自然の循環に負担をかけない昔ながらの酪農で，地域によい循環を作っていけるような牧場でありたい。

これは３年前，湯﨑知事の「チャレンジ・トーク」で発表させていただいた時にまとめに使った図です。工房を再開したばかりの気負いか，大それたと今見て恥ずかしい気もしますが，一生の課題であることに変わりはありません。私たちが生かされているこの社会をよりよい形で引き継いでいきたい。私たちに大きな喜びを与えてくれる自然をより豊かに残していきたい。これからずっとそれぞれのライフステージで，したいこと，できること，すべきことにチャレンジしていきたいと思います。ありがとうございました。

●横　山

では前にどうぞ。いかがだったですか，これだけたくさんの方の前でお話しするのは。何かマイペースだったですね。

○福　元

はい(笑)。私，話すのが遅いので，10 分におさめなきゃいけないと思って，原稿を書いて，計って来たので，もう後は読むだけで(笑)。

●横　山

僕，実は東日本大震災のチャリティイベントを月に 1 回やらせていただいていて，今，宮城県石巻市に 1,350 万円ぐらいの寄付をさせていただいているんです。毎月，毎月，10 何万円とか 20 万円とか集まっているんですけど。これに協力をたまにしてくださっていて。商品を広島市内まで持って来て，出してくださって。僕も食べさせていただいたことが，たびたびあるんですけど。僕，おっぱいで味が違うとは知らなかったです。

○福　元

そうですよね。時々，オスでもおっぱいを出すと思っている方もいらっしゃいます(笑)。

●横　山

そうか，出ないのか。えっ，じゃあ牛とかヤギとかだけじゃなくて人も違うのかな。

○福　元

こっちだけ乳腺炎になったりしますよね。独立しているので違います。

●横　山

こっちでできたのは美味しいけど，こっちは美味しくないとかいうのが牛でもあるんですか。

○福　元

あります，あります。なので，全部本絞りする前に，ひとつずつ確認します。

●横　山

本絞りっていうのがあるんですか。

○福　元

本絞りと言わないかも知れませんけど，ためる前にひとつひとつ味と状態をみます。

●横　山

飲んでみたりとかするんですか。

○福　元

見て大体は分かります。

●横　山

へー。品質も確認して，安心，安全な自慢できるものを提供するということですね。

○福　元

それは牧場をやる時に夫とどんな形でやりたいかというのをいっぱい話して，始めたことです。二人とも専門は違うんです。だけれど，こういう形でやりたいとなった時に，こういう形でやりたいから，どう実現していこう，という風にいままでやってきました。

●湯﨑知事

話の中で，仕事は大切にしたいことをかなえる場。自然や循環についてもお話をいただき，自分の生き方や価値観を実現するために暮らしていらっしゃるな，仕事をしていらっしゃるなということが分かりました。それが子育ての環境ともぴったり合っているような感じがしました。

●横　山

若干，子供がハイジとペーターみたいに見えてきますもんね。ちゃんとした酪農をして，牛には美味しいものを食べてもらって，美味しいものを食べたからそこから出てくるものも美味しくて，それをより美味しく提供して。子供の頃，ハイジがチーズを直に火で溶か

してパンに乗せて食べているのを 49 歳だけど今でも憧れますもんね。

○福　元

そうですね。本当に。

●横　山

年取って，アルムおじさんになる訳でしょう。

○福　元

うちの娘はもう２歳になる前ぐらいから，このチーズのお乳が牛の「みみ」たちのお乳で，こうやって草を食べて出していて，お父さんがこうやってチーズにしているというのを分かって食べていますね。それはすごくうれしいことです。

●横　山

欲張りというか，ぜいたくなことですね。

●湯﨑知事

ぜいたくですよね。遊び方も，南天の実でままごとをするとか，つくしを採ったりとか。うちの子なんて，つくしを見たこともないと思います。残念ながら。

●横　山

今は自然に触れ合うといったら，テレビでトトロを見るぐらいですよね。

●湯﨑知事

何が食べられて，何が食べられないか，もう知識がすでにあるという感じですね。

●横　山

以前，吉川晃司さんが何をやるのもグワーとのめり込むんですよ。あぶない刑事の撮影の時には，本当にバイクを自分が運転したくて，練習していてバイクが転倒して骨折してコンサートができなくなったぐらい，何をやるのもこうなるんですけど。ある時，軽井沢でレコーディングをする前に，何かを熱心に読んでいて，何を読んでいるんだろうと思ったら「食べられるきのこ」の本でした。自分で自給自足したいと思ったらしくって。あの人はフェラーリに乗っているんですが，フェラーリから釣竿が出ていて，本当に自分ひとりで生きていこうと思っていたようです(笑)。でもある意味，都会に住んでいるとそういうことにものすごく憧れたり，でもしたくても知恵とか知識がないとできないことがいっぱいある気がして。それを日常でされているということですもんね。

○福　元

学びつつ，楽しみつつですね。

●湯﨑知事

遊びが学びになっているんですね。最後のスライドを見せていただいて，ふくふく牧場の活動と地域の強みとか，ふくふく牧場のサポーターやファンが３つ重なったところでやっていきますといわれましたが，それはもう実際に実現している感じがしますよね。

○福　元

それぞれのライフステージでできることをやって行きたいなとは思っていますけど，まだまだ小さな活動で，今日，私が出させてもらっていいのかなとも思うぐらい，本当に県北，備北には面白い活動をされている方がいっぱいいらっしゃいます。そういうつながりがやっとできてきて，そういう中でまた生かされています。だから今からなんですが，とてもいい所だし，面白く生きられる地域じゃないかなと思います。

●湯﨑知事

福元さんに出てもらってすごくよかったと思います。申し訳ないのですが，横山さんと違って，とっても普通の人じゃないですか。見るからに，しゃべるからに。とっても普通の人なんだけど，その中で自分のやりたいことを実現できている。『よくばりさん』ですよね。普通の人でも大丈夫なんだということを身をもって示していただいてるような感じがします。やはり福元さんじゃないと，今日はダメだったと思いますね。

●横　山

僕にはないものがいっぱいありますね(笑)。本当にうらやましい。火が起こせるかとか，ご飯が炊けるかとか，そういうことって実はとっても大事なことです。今日はご年配の方が多いじゃないですか。慣れた方は新聞紙１枚でパッと火をつけたりするじゃないですか。うちの親父とかお袋もそうだったんですが。僕らは着火剤とかないと無理でしょう。ああいうのは生きることにつながるような気がするんです。そういったことを震災があってちょっと被害があって，どっかへ行かなくちゃいけなくなった。それで広島に来られて，すごく短い期間に，命というものを考えてこられて。そこから日常を楽しむということに切り替えられるスピード感が，すごくゆったりされている方なのにうまくできて，充実された毎日が見えるので，ある意味，すごいスピード感なんだよな，という気がするんですね。

○福　元

ありがとうございます。やりたいことは決まっていたので，ただつらい気持ちなんかは，するべきことがあったのと，豊かな自然と，あとは人にたくさん関わっていただいた。そうする中でどんどん気持ちが前に進む方になってきた。子供が生まれたのも大きいですし，まわりとの関わりが大きいと思います。

●横　山

何かする時に全部を１度リセットしてやらなきゃいけないと思うけど，今ある環境をベストと思って楽しむ。限られた幸せとか地域でそれを全部使う。それをされてる気がして，うらやましいです。

○福　元

ありがとうございます。

●湯﨑知事

素晴らしいですね。

●横　山

知事が僕より福元さんの方がいいような感じになっているのはちょっと悔しい(笑)。

●湯﨑知事

いやいや，そういう意味じゃないですよ。違うパターンがあるなということです。

●横　山

ぜひ，ふくふく牧場をみなさん覚えていただいて，おいしく召し上がっていただければと思います。ありがとうございました。

●湯﨑知事

ありがとうございました。

４．欲張りトーク

●司　会

出演者全員で「欲張りなライフスタイル」についてディスカッションする『欲張りトーク』です。まずは湯﨑知事から，「欲張りなライフスタイル」について改めてご説明いたします。

●湯﨑知事

それではよろしくお願いいたします。冒頭のあいさつでも少し申し上げたのですが，広島県が目指している「欲張りなライフスタイル」。このベースは右肩にあります，「仕事でチャレンジ，暮らしをエンジョイ，活気あふれる広島県」ということです。今，我々が目指そうとしているライフスタイルからきているところです。

問題意識は，暮らしを犠牲にするような働き方をしていたり，あるいは暮らしが大変なので仕事をあきらめているということがないでしょうか，ということです。これは例えば，東京に住んでいると通勤も大変だし，仕事も忙しいし，とても子育てなんかできません。ということで出生率が低かったり，そのようなことがある訳ですけど，広島だと，実は仕事も暮らしも両方，欲張れるのではないかということです。暮らしを充実させて，仕事の生産性をアップ。これはお話の中にもありましたが，仕事の段取りをして，効率よく仕事をすることによって時間を作るということです。そして，それがまた，暮らしの充実につながって，仕事の生産性にもつながる。広島県としては，どちらもあきらめない『欲張り

なライフスタイル』を応援していきたいと思っています。

そして，それが実現できる条件，要素が，広島県にはあるのではないかと思います。ひとつは，都市と自然が近接をしているということです。例えば，チーズにしても，都市が近い。広島，福山が近いので，そこに売りに行くこともできるし，お客様が買いに来てくれるということもあるのではないか。逆に都市に住んでいて自然が近いので，その自然を楽しむということがしやすいんじゃないか。あるいはイノベーションを生む土壌，これは古くから広島にある物作りの技術や，あるいはデザイン，今マツダがすごく頑張っていますけれど，そういった優れた，付加価値の高い製品が数多くある。そしてもうひとつ，ファミリー・フレンドリー。これは今，県としてもさまざまな施策を進めているところですが，例えば，広島県の男性の平均育児時間は全国で４位だったり，あるいは仕事から帰る時間は東京よりも１時間早いのです。つまり広島だと，仕事が終わって家でご飯を家族みんなで食べることができる。東京だと帰宅時間が８時とかになるので，子供が小さいと一緒に食べることができないとか，そんなことがある訳です。

広島県としては，仕事や暮らしに対する希望，それぞれいろいろあると思うんですね。仕事が８割の人もいれば，暮らしが８割の人もいます。両方，５割５割でやりたいという人もいる。広島県でならかなえられると思える，仕事や暮らしに対する希望。そのためのさまざまな取組をしているところです。

広島県の人口はこのまま進むと，大変大きく減少していきます。今は 280 万の人口がありますけど，このままいくと 2060 年には 190 万人になる。つまり 90 万人減るということになります。広島市がまるごと無くなるくらいの大きさです。一方で今より多くの子供がほしいとか，広島に住み続けたいという回答もたくさんあるのです。仕事も暮らしも，自ら持つ希望を実現できるような環境づくりを通じて，人口減少を押しとどめていかなければいけないということです。人口減少がどんどん進むと，経済や消費が小さくなって，非常に大きな影響を県民生活にも与えていきます。

そういう中にあっても，効率的に働いて，暮らしも充実することができれば，活気は維持することができる。そのために欲張りなライフスタイルを実現していこうということであります。

その中で，いろんな『欲張りライフ』を実践しているみなさんにお話を聞いてきました。「空気のきれいな島でのびのび暮らしています。島の野菜や果物は最高」だとか。あるいは，「タクシー会社で働きながら，休日は家族や友人とサイクリングを楽しんでます」とかですね。

仕事と暮らしをしっかりと分けて楽しんでいらっしゃる方もいますし，仕事と暮らしが一体化しているような人たちもいらっしゃいます。そしてもっと欲張るために，生産性の向上など，さまざまなことをやりたいという希望もある訳ですね。こういったことをかなえていこう。

次にそれを実践するのは誰かというと，会場の皆さん，お一人おひとりだと思います。それぞれいろんな仕事，あるいは暮らしがあると思います。それぞれの『欲張りなライフスタイル』を見つけて，そして今日のお話にもあったように，今，自分はこうだから，こっちはもうあきらめよう，とか枠を自分で作らないで，両方やっていいんだ，あるいは３つも４つも５つも，みんなやっていいんだ，と考えていただいて，それをどう実現するか

を広島県も応援しますので，みんなで考え，実現できればと思います。そしてそれが日本全国のモデルになると思っていますので，ぜひ皆さんもお考えいただければと思います。

この「欲張りライフ懇談会」は，『欲張りなライフスタイル』の実現がひとつのテーマです。

それでは５人でこれについてお話をしたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

●横　山

今日は知事が全部司会とかもされるということなので，お任せしておりますけども。

●湯﨑知事

いえ，していただいて結構です。ありがたいです。

●横　山

ここはした方がいいかなと(笑)。

今日は気になることがすごくあって，今日，会場に来られている方が今の知事の話をどう思われるのか。それがとても気になっていて。例えば，僕はサラリーマンなんですけど，ちょっと自由業というか，比較的に他の方よりも時間が自由に使えるのかなと。

月橋さんも福元さんも岡本さんも，なんとなく形通りのサラリーマンではなくて，経営する側なので，時間がうまく使えるのではないかという気がしていて。

●湯﨑知事

月橋さんと福元さんは自ら経営されていますからそうですけど。岡本さんはサラリーウーマンですよ。

●横　山

そうか。岡本さんのような，ある程度決められた枠の中で生活している方は，そこからどういう風にはみ出し，どういうふうに『欲張り』な生活を心がけているかを聞きたいですね。

○岡　本

そうですね，私はダンスだけじゃなく，昼間の建設会社の仕事も小さい頃から憧れていました。建設会社の仕事は，ダンスと似ているところがあり，ものづくりの意味で地図にないものを作り上げていくことをすごく誇りに思っています。ダンスもせっかくなので，会社のみんなに知ってもらいたいと思い，社長と若手社員が仕事場に集まってやっています。年に 1 回その披露をするということでチームワークを高めることにも役立っていると思います。だから私は仕事も楽しもうと今は思っています。

●横　山

やりたいことを会社の方々に理解してもらって，一緒に楽しんでもらえるように自分で

も動いているということですよね。

○岡　本

そうですね，楽しいことをどんどん欲張って追求している日々です。

●横　山

月曜から金曜までちゃんと，例えば９時から５時まで会社で働いて，家に帰ったらいろいろとやることもある。その中で空いた時間を作るためには，職場の方々の理解も必要になるんですね。

●湯﨑知事

そうですね。仕事も一生懸命やられるということですよね。ダンスはもちろんですけど，仕事も大好きなんですね。

○岡　本

仕事も大好きで，頑張っております。

●横　山

会社の人から，「あいつダンスやってるけど，仕事はちゃんとやらないんだよな」と言われたらおしまいですもんね。

○岡　本

そうならないように人一倍頑張ろうと，心の中で日々思いながら，毎朝気合が入っています。

●湯﨑知事

横山さんはそういう意味ではサラリーマンじゃないですか。今は『ごぜん様さま』で，朝９時から必ず行かなくてはいけない。「今日はやめとこうか」とはいかないですよね。

●横　山

でも自分がいればいい，ということでもあるんですよ。ものすごい準備がいるとかいうことでもないので，それこそ『欲張りライフ』というか，毎日充実できるように，それをルーティーンワークにしてしまえば，前の日に楽しいことがいっぱいあったので，それを朝，伝えるだけでいいという気がしています。ある意味，いればいいということは，考え方で言うと楽だなという気がします。これが何か発表するとか，売るとかではないので，比較的に気持ちの持ちようみたいなところはありますね。

●湯﨑知事

月橋さんは経営者ですから，社員の皆さんに対する責任もあって，仕事をちゃんとやらないとみんなが困ってしまいますよね。

●横　山

本当ですよ，「なんか，うちの社長は子供の野球にばかりに行ってるんだよな」と言われたら大変ですからね。

●湯﨑知事

そういう中で，責任も果たしながら，子供たちのための時間を取ったりするのもしっかりされているわけですよね。

○月　橋

いつも申し訳ないなとは思っているんですが，社員さんには絶対の信頼がありますので。うちの会社は女性ばかりなので気は使っています。どこかへ行ったら必ずお土産を買ったり，ケーキを買って帰ったりとかまめにしています。

●横　山

それ大事ですよね。女の人を仲間につけることは大事ですよ。本当にそう思います。昔，世良洋子さんとかそうだったです。いただくものがいっぱいあるんですよ。リスナーの方々から，今の時期ならトウモロコシが美味しいですよとか，季節のもの。それこそピオーネとかをいただくんですよ。それを独り占めにせずに，関わっている女性の方に一個ずつあげると，みんなすごく協力してくださいますもんね。

○月　橋

やっぱり全然違うと思います。

●横　山

ワイロって必要ですよね。

○月　橋

ワイロというか気持ちですよね。気持ちの部分はいるのかなと思います。

●湯﨑知事

福元さんは，もちろんお仕事はしっかりされているんですが，僕から見ると仕事と暮らしが渾然一体になっているように思うんですけどね。

○福　元

はい，本当にそう思っています。何を大事に生きていくかという部分が，暮らし方にも仕事にも一番に出てくると思うので，なかなか切り離せない部分です。そうした生活を楽しむために口和のような里山で生きていこうと思いました。その前はいわきの山の奥で生きていこうと選んだので。それが私たちの生き方ではあるのですが，やはり時々「あっ，ちょっとここから離れてリフレッシュをしたい」とか，「気持ちを切り替えたい」。「やっぱ

り作ったものを全部誰かに食べて美味しいと思ってもらいたい」と，ずっと頭にあると疲れることもありますので，そういう意味では家庭教師をやらせてもらったりというのが，また違う人のために準備をして仕事をする楽しさもありますし，ここから離れられるという面もあるので，私にとってはいい時間になっています。

●横　山

福元さんは口和じゃなかったら，もう大変かもしれませんね。信号を渡っているうちに赤になるみたいな感じがしますから(笑)。都会の生活じゃない方が絶対いいですよね。

○福　元

私は東京にも暮らしておりました。

●横　山

マジですか。(会場・笑)

●湯﨑知事

きっとその時には歩くのが早かったんでしょう。しゃべるのも早かったりして。

●横　山

絶対に信号を渡っているうちに赤になりますよ。ププっと１回鳴らされるような気がします。だから口和で楽しさを知ると，ぜいたくな感じがするでしょう。

○福　元

生活そのものが，ぜいたくです。出かけて行かなくてもその場がぜいたくですし，人もすごくあたたかいんですね。なので二人目の出産を夫婦ふたりだけであれだけ楽しく時間を過ごせたのは，いろんな方がおせっかいなほど，なかなか自分からは頼みづらいけれども，「こうしてあげるわ」と来てくださるような人のつながりがあったおかげです。みなさん，口和は住みやすいので，ぜひ知り合いをどんどんこっちの地域に呼んでいただきたいなと思います。

●横　山

そのかわり，ゆっくりしゃべんなきゃいけないですよ。(会場・笑)

●湯﨑知事

こうやってみると，改めて思うのは，それぞれパターンが違うということですね。なんか欲張りもいろいろあるなという感じがしますね。

●横　山

だから価値観だったり，好き嫌いだったり。映画を見るときがそうだと思うんですけど。映画っていい悪いを僕たちは見ている訳ではなくて，好きか嫌いかを見ているような気が

して。だからみんなはつまんないよという映画でも，これすごい僕は好きなんですよ，というのが映画のよさのような気がします。

この『欲張り』というのを語るときに，良し悪しじゃなくて，どれが１番合ったか。これなら自分もできるな。横山さんのは僕は違う気がするとか。自分の中で納得できる『欲張り』な過ごし方や見本がある気がして。岡本さんも福元さんも月橋さんも僕も知事も『欲張り』だと思っているので，なんかいろんな『欲張り』を，どの『欲張り』が好きでしたとか，合ってましたみたいな感じなのかなと思っていました。

●湯﨑知事

それぞれの『欲張り』でいいというか。みんなで共通するのは，自分の好きとか，大事にしていることを大事にしている。当たり前のことかも知れませんが，大事にしなければいけないことを大事にできないことはよくあると思うんですが，でもそれを大事にすることと，それを何かの理由をつけて，できないと言わないこと。この辺がすごく共通しているんじゃないかと思います。

●横　山

人は世間体を気にするので，家族は一番大切にしなければいけないはずなのに，家族だからいいやと思って，手を抜いているところがあるじゃないですか。でも家族だから大ゲンカもするし，１番雑なところも見せる。人生で１回しか会わないような，ものすごい悪い言い方をすると，この人に嫌われようが好かれようが何てことないよっていう人には，「ああどうも横山と申します。よろしくお願いいたします」とペコペコ，ペコペコして，すごい頭をさげる。本当は家で家族たちにあれくらいニコニコしてあげて，愛を注げたら，すごいいい人生が送れたり，時間が過ごせるはずなのに。どうでもいいところにものすごく気を使うけど，大切なところに目が向けられてないんじゃないか。そこの時間がロスされているんじゃないかと思うと，福元さんの生活とか，月橋さんの生活とか，岡本さんの生活を見ていると，知事もイクメンだったので，さっき言われた本来大事であるべきものを大事にちゃんとするということが『欲張り』なんだなというのは，今日，思いましたね。

●湯﨑知事

そうですね。本当に改めてそう思いますね。いろんな苦労もあるかも知れないけど，それができないと思わないで，ちゃんと大事にしていこう。そのために月橋さんはいろんな営業の工夫をやったり頑張っている部分もありますよね。

●横　山

何かするためには，ちょっとだけ頑張らないといけないこともあるということですね。

○月　橋

独立したのもいろいろあるんですが，やっぱり僕は人に喜んでもらうのが一番うれしいことなんです。ちょっとでも貢献できるような商品を作りたいなと。筆のシャンプーも自分で言うのも何なんですけど，ものすごいいいものなので，広島県の子供たちに知事が買

ってもらえればいいかなと思うんです(笑)。

●横　山

自慢の後は売り込みじゃないですか。いい加減にしてください，月橋さん。(笑)。

○月　橋

売り込まないと言ったんですけど。子供も含めて女性とか，いろんな方に「よかったよ」と言われるのが，僕はやってよかったなと思うんで，それが生きがいというか，『欲張り』ですね。

●横　山

福元さんは商品だったり，岡本さんは喜びを皆さんに見ていただいたりする，自分がやっていることに自信をもっている。嘘をついていない。「うまいでしょ」「美味しいでしょ」とかいうことじゃなくて，間違いのない，正直なものをお届けしているということですね。それがあると他のことにも自信を持って向き合えるんだろうなという気がしますね。

●湯﨑知事

そうですね。本当にみなさん，福元さんは横山さんとの比較で言いましたけれど。岡本さんも，月橋さんも，普通の一般の方で。横山さんはテレビに出ているから特殊っぽく見えるけど。本当は横山さんも普通の人なんだと思うんですけど。誰でも『欲張り』になれるということを今日，改めて思いましたね。

●横　山

今日は見る側だけど，「私の自慢話も聞いて」「私の『欲張りライフ』も聞いて」と思っている方が会場にもいっぱいいらっしゃる気がしますね。

●湯﨑知事

そうですね。

●横　山

「だったら私もこんなことをしているよ」っというのが。

●湯﨑知事

「ひょっとしたら，自分もこれをやってもいいかな」と思っていただけると，僕は今日はすごくいいんじゃないかなと思いますね。

●横　山

「あんた本当に自分のことが好きよね」と，からかう人がいるじゃないですか。それの何が悪いと僕は思っていて。自分のことを一番好きで，応援してあげる人が自分じゃなかったら，みんな応援してくれないじゃないですか。だから自分のことが好きで，自分のこ

とを大切にしていたら，他のまわりの人たちも大切にできる。自分を大切にできない人が，人を大切にできる訳がないと思います。自分をいっぱい好きになってもらって，いっぱい応援してもらって，『欲張り』な生活を送ってもらって。みんなが「いいね，あなたは」と言ってもらえるような自分を見つけ出せたら今日の２時間は無駄にならないんだろうな，いい時間だったんだろなという気がします。

●湯﨑知事

ありがとうございます。今日は横山さんに大変にお手伝いをいただきまして，僕も楽でいいです。

●横　山

これからは知事と僕のセット売りでやっていただければうれしいです(笑)。

●湯﨑知事

会場のみなさん，ありがとうございました。ご登壇いただいたみなさんに大きな拍手をもう一度お願いします。

５．閉会挨拶

●湯﨑知事

もうすでにずっと言ったので改めてごあいさつという感じもしませんけれども，これまでは「チャレンジ・トーク」というのをやっていて，それぞれチャレンジをしていることをお話しいただいてきたんですが，今日，出ていただいた『よくばりさん』もやっぱり共通するなという感じがしました。それぞれ持っているもの，好きなもの，自分が大切にしているものがあって，それを本当に大切にしているし，できるし，それがまさに『欲張り』だし，幸せにつながるのではないかなと思います。今日の４人の方々のお話を聞いて実感を強くしました。ぜひ，会場の皆さんも本当に自分の『欲張り』は何だろう。つまり自分の好きなものは何だろう，大事にしているのは何だろう，それはどうやったら実現できるんだろうかと考えてください。それが楽に実現できる訳ではないと思うんですが，でも，ちょっとだけ頑張ってみようとか，ちょっとだけ行動に移してみたりしたら，その道がまた見えてくるんじゃないかなと思います。ぜひみんなで少しずつ『欲張り』になっていただければなと思います。一人ひとりがちょっとずつ『欲張り』になって，幸せが増えると広島県の幸せもすごく増えると思うのです。そんな幸せな広島県になったらいいなと思いますので，ぜひこれから，みなさんいろいろ考えていただければと思います。

今日は本当に長い時間ありがとうございました。